

宇都宮大学教職大学院の特徴とは

平成30年12月8日・9日にわたって、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋)において、平成30年度日本教職大学院協会研究大会が開催されました。9日には、全体会と分科会「ポスターセッション」が行われ、「ポスターセッション」において、宇都宮大学教職大学院における学修の成果について発信することができました。本号では、この大会の様子と、宇都宮市教職20年目研修での授業研究会の様子を紹介します。

◆教職員大学ではなく教職大学院です

全体会では、「これからの時代に求められる教職大学院の在り方」という演題で、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長 柳澤好治氏による基調講演が行われました。教職大学院に関する様々な課題についての話がありましたが、特に、①各教職大学院の強みや特色の発揮、②教職大学院の高くない世間の認知度について強調されていました。②については、未だに「教職員大学」と呼ばれるケースもあるということでした。本教職大学院においても、本通信の発行、教育実践フォーラムの開催等の広報活動を行っているところですが、エビデンス(根拠)に基づいた成果の提示等も含め、広報活動を一層充実させていく予定です。

◆修了生による実践発表

ポスターセッションでは、修了生である久我逸就教諭(現任校 宇都宮市立資川第一小学校)から、実習校における長期実習の成果の概要についての発表がありました。授業における子供の学びの姿について、若手の先生と授業後の振り返りを繰り返し実施したことや、この振り返りを通して互いの授業観が徐々に変容していったことについて、短い時間でしたが、分かりやすく語っていただきました。現任校においても、同僚の教職員との日常的な「対話」を積み重ねるなど、教職大学院での学修成果を日々の教育活動に生かしているということでした。発表の前後には、多くの質問をいただき、参加者の関心の高さが感じられました。

他の大学からも、様々な成果についての発表がありましたが、「教育実践プロジェクト」における長期実習の間に、より深く課題解決ができるという点が、本教職大学院の特徴であると改めて確認することができました。こうした取組ができるのも、連携協力実習校の先生方の温かいご理解があるからです。この場をお借りして感謝申し上げます。



◆宇都宮市教職20年目研修との連携

本教職大学院では、「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」として、宇都宮市教職20年目研修の学校会場授業研究に関して連携を図っています。これは、宇都宮市の20年目研修の受講者と教職大学院の教員及び院生がともに授業実践の振り返りを行うことを通して、互いに学校における中核的リーダーとしての資質向上を目指すための事業です。

今年度は横川中央小と五代小で実施しました。私も参加した五代小では、仁平由美教諭による6年社会科「子育て支援の願いを実現する政治」の授業を20年目研修受講者4名と院生5名が参観しました。「ゆいの杜地区小学校新設」に関わる新聞記事を題材にすることで、住民の願いを実現させる過程について関心をもたせることができました。授業研究会(リフレクション)では、松本敏教授がファシリテーターとなり、子供の学びの姿をもとに、深まりのある協議を行うことができました。



平成30年度 宇大教育実践フォーラムのお知らせ

- 1 日 時 2019年2月9日(土)・10日(日)
 - 2 会 場 宇都宮大学教育学部教室等
 - 3 日 程
- [1日目]
9:30~14:50 教職大学院教育実践プロジェクト発表(教職大学院生による発表)
15:00~16:40 シンポジウム「教職大学院の改革動向と教員育成指標の活用」
- [2日目]
9:30~14:00 ラウンドテーブル

※日程の詳細については、宇大教職センターまたは教職大学院のWebサイトでご確認ください。

「大学入試センター試験における受験上の配慮」 教育実践高度化専攻准教授 司城紀代美

受験の季節となりました。各試験において、障害のある受験者等への配慮が行われています。

数多くの大学が利用する大学入試センター試験についても、受験上の配慮事項に関する案内がホームページ等で確認できます。配慮事項は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、発達障害、その他の区分ごとに設定されています。例えば、発達障害の受験者に対する配慮事項の例としては以下のようなものが挙げられます。

- ・試験時間の延長(通常の1.3倍)
- ・チェック解答(マークシート方式ではなく、チェック解答用紙に受験者が選択肢の数字等をチェックする解答方法)
- ・拡大文字(14ポイントまたは22ポイント)問題冊子の配布
- ・注意事項等の文書による伝達
- ・別室の設定
- ・試験室入口までの付添者の同伴

このほか、リスニングの受験方法についての配慮事項等もあります。

受験上の配慮決定者数をみると、全体では、平成28年度2,559人、平成29年度2,594人、平成30年度2,873人となっています。発達障害の区分では、平成28年度180人、平成29年度249人、平成30年度310人と、増加が著しいことがわかります。受験上の配慮によって、障害のある子どもたちの進路選択の幅が広がると考えられます。

参考:独立行政法人大学入試センターHP <https://www.dnc.ac.jp/>

《シリーズ:院生の声 ⑨》

自己省察

教職大学院の学びの中で一番多く使用した言葉は「リフレクション」です。起きた出来事の真意を探り、その経験における自分の在り方を見つめ直すことで、今後同じような状況に直面したときによりよく対処するための「知」を見出そうとする方法論です。その影響で、これまでに積み上げてきた実践知や指導観を揺さぶられる毎日です。

入学当初、「数学の授業を通して、どんな生徒を育成したいのか?」と問われました。学級経営や部活動では考えや願いをもっていたのですが、教科指導の根本に関わる問いに即答できませんでした。さらに、これまでの指導が得点偏重や正答まで最短で一直線に向かわせることばかりを意識していたと振り返りました。得点重視の視点だけでは見落としてしまう生徒の学ぶ姿があったのではないか、単線的な学びの中では生徒の主体性を奪ってしまったのではないかと考えます。

連携協力実習校では、生徒から分からないことや疑問に思ったことの質問を受けることが多くあります。未知のものを学ぶ学習の中で自然な事であるにもかかわらず、これまでの私が「分からない」と言えない雰囲気を作っていたと気付かせられました。「分からない」と言える学級は安心できる学習環境の基盤になり、学習意欲の向上に寄与します。生徒の声に受容と共感の姿勢で寄り添える教師であり続けたいと決心しながら、不意になぜ教職に就いたのだろうと初心を思い起こします。様々な事に自問自答が繰り返され、思考が混沌とした状態に陥り、頭を抱えますが、この立ち止まって考えている時間が大きな力に変わることを信じています。

私は憧れる教職員にたくさん出会うことができました。自分もそんな存在になりたいという思いはありますが、まだまだほど遠いと…。こんなことを、休日に二人の息子と鳥ヶ森公園までサイクリングしながら考えるようになるのが宇都宮大学教職大学院です。

(2年 寺崎裕史)

支えられている幸せ

あっという間に月日が流れ、1月になりました。昨年を振り返ってみると、毎日が充実していたと心から思います。その理由を考えたときに、ふっと頭に浮かんだことは、「支えられていた」と感じる瞬間が数多く存在していたからということでした。後期の実践プロジェクトに入り、私は様々な場面に出会いました。楽しい、嬉しいというプラスの感情が働く場面が多くあった一方で、悩みを抱く場面も多くありました。そんなとき、私は必ず教職大学院に行き、現職の先生方や同じ学卒院生たちとたくさん話しました。みなさんに話を聞いていただくことで、これからの方向性を丁寧に考えることができました。また、考え方が縛られないような言葉かけもたくさんいただきました。みなさんからもらった言葉の一つ一つが私の心に大きく響き、気持ちの面での支えとなりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、私は連携協力実習校の先生方や生徒たちにもたくさん支えられました。授業実践の際には、生徒たちは私の思いを受けとめ、応えようとしながら授業に臨んでくれました。生徒たちのそのような頑張りが私自身の原動力にもなりました。共に支え合うことができたから、授業をつくっていくことができたのだと思います。そして、多くの先生方にご参観いただき、学びの多いご指導をたくさん賜ることもできました。先生方と生徒たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。

支えられている場面は日常にあふれています。意識して目を向けようとしなければ、その瞬間に気づき、実感することができないのだと思います。これからも、その意識を大切にしながら過ごしていきたいです。また、私はたくさんの人に支えられましたが、私自身は誰かの支えになることができていたのでしょうか。今までの私の言葉や考え方が、少しでも誰かの支えになっていたら嬉しいです。そして、これからも相手を思う言葉や考え方を、たくさんの人に届けていきたいと思っています。

(2年 小又永理)

《編集・発行》宇都宮大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350番地 Tel: 028-649-5242

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/index.html>

◇教職大学院Facebook : <https://www.facebook.com/uuptnet> ※院生が編集し、教員が管理しているFacebookです。

